

<p>諏訪美術教育研究会 7月28日(日) 諏訪教育会館 【参加者83名】</p>   	<p>～すわび こどもミュージアムDAY～ 八ヶ岳美術館 「プラバンで作る鳥のサンキャッチャー」 茅野市美術館 「アートカードゲームで遊ぼう」 諏訪市美術館 「マクラメリーフ作り」 諏訪市博物館 「夏休みの思い出を絵巻物にしよう！」 原田泰治美術館 「アート×実験！？」 キッチンリトグラフで遊ぼう！」 岡谷美術考古館 「不思議な魚たちの水族館をつくろう ～紙粘土アート～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童を対象とした造形活動の楽しさ、面白さを感じてもらおうワークショップ ・美術館・博物館との連携の方法のあり方の研究 ・素材や題材等の研究 	<p>昨年度から始めて今回で2回目の諏訪地域の美術・博物館との連携の企画で、各施設の特色を生かしたワークショップが行うことができた。今後もこの連携を大事にしていきたい。・前は好評で抽選でできなかった児童が多く出てしまったので、午前の部、午後の部に分けて開催し、多くの児童にワークショップをしてもらうことができたが、ワークショップの申込みに偏りが出てしまい、うまく各ブースの調整ができず難しかった。美術・博物館と内容等調整して偏りをできるだけ少なくしていきたい。 【参加者の声】・たくさんの形を並べたり、たくさんの色を比べて作ったりして自分だけの魚を作れて楽しかったです。(小2) ・プラ板が好きで、すごく楽しかったです。また来ます。またこのイベントがあってほしいです。(小4)</p>
<p>諏訪社会科教育研究会 8月1日(木) 集合・解散場所： 川岸小学校 【参加者21名】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡谷市川岸地区の地理・歴史を中心とした教材開発につながる研修 ・実証授業に関する授業検討会 	<p>これまでも諏訪社研の夏季研修会は臨地研修と授業検討会の二本立てで進めてきました。やはり現地で得られる学びは大きく、明日からの授業に生かす活力が湧いてきます。また、授業検討会も、仲間の授業から自身の授業を見返す貴重な機会となるため、有意義な時間となりました。また、口コミで参加された若い先生方にも感謝です。今後もこうした機会を大切に、熱意ある先生方と学びあいたいと思います。【参加者の声】やっぱり社会科は面白い!!そう思える臨地研修でした。こういうワクワク感を教師自身が味わう。それが子どもたちへと伝わっていく。そんなサイクルが回っていくことが大切だと感じた1日でした。</p>
<p>道元と教育実践を語る会 8月2日(金) 瑞雲寺(富士見町) 【参加者11名】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「正法眼蔵随聞記」の読み合わせ ・教育実践報告 (永明小学校 北澤 洋一教頭先生) ・「道元禅師に学ぶ」の講演 (瑞雲寺住職 根田 泰聖 様) ・座禅 	<p>平日であったが、10名を越す先生方が集まり、充実した研修会を行うことができた。お寺のご住職にお話をお聞きする機会はありませんので、とても貴重であった。道元について基本的なことを学ぶことができた。座禅もよい研修となった。 【参加者の声】普段ふれることのない「正法眼蔵随聞記」を読む機会が得られ、勉強になった。内容は難しかったが、声に出して読むと何となく心地よかった。</p>

<p>諏訪道徳教育学会 8月8日(木) 諏訪教育会館 【参加者16名】</p>	<p>道徳の授業作り 小4道徳「まあ、いいか」の資料から、2グループに分かれて導入、中心発問、学習活動、振り返り等を考えた。検討した授業案を更に練り上げ、道徳教育学会で行う予定の研究授業で実践し、研究を更に深めていく。 1学期の成果と課題の情報交換 小・中学校・管理職等様々な立場で実践報告や悩み事やアイデアの情報交換を行った。 講演「子どもと共に歩む道徳の学習～粹にとらわれず、なおかつ、道徳性の獲得を目指して～」 道徳授業で教材を扱う理由、結論が出ないまま終わる教材の是非や、道徳を日常的アプローチとして扱う実践例など、多岐にわたってお話をお聞きした。</p>	<p>参加人数は今年の11名から5人増加となり、活気ある研修となった。学会員ではない先生にも参加いただけた。研修したいという先生がいるということからも、今後の学会活動のアナウンスを広く呼びかけていく。 【参加者の声】単純に授業について語り合うことは楽しい。指導書に沿うのではなく学級の児童の実態に合わせてねらいを定めることが大事だと思った。</p> 
<p>諏訪総合・生活科教育研究会 8月1日(木) 上諏訪小学校 【参加者25名】</p>	<p>段ボール釜でピザづくり ・グループに分かれ、目指すピザを決める、そのために、どんな工夫をしたいか考える。 ・生地を捏ね具合や、段ボール釜を工夫しながら制作する。 ・実際にピザを焼いて試食する</p> 	<p>細かな手順を示さずに大まかなイメージのみで、グループごとに追究した。目指すピザにするために、生地をよく捏ねたり、じっくり発酵させたり、薄くのぼしたり。どんな大きさの段ボールを使うか、網をどのように設置するか。それぞれのグループの工夫があり、追究の姿が見られた。【参加者の声】・好みのピザに合わせて、工夫のしどころがたくさんあって、楽しかった。・ピザ作りに自信がなかったが、だれかに「聞く」「見せてもらう」ことで美味しいピザにたどりつけた。「共に学ぶ」環境づくりの有効性と意義を実感した。</p>
<p>諏訪学校体育研究会 7月31日(水) 諏訪湖 【参加者：20名】</p>	<p>カヤックの体験 カヤック協会 椎名先生(四賀小)</p>	<p>カヤック研修では普段できない活動を研究会の仲間と楽しみながら行うことできた。研修期間は学校や市町村の研修もあるので日程を組むのに苦労した。【参加者の声】初めてカヤックに乗りました。はじめは少し怖かったですが、慣れてくると疾走感が楽しく感じました。来年度はどんな体験型の研修か分かりませんが、来年度も楽しみにしています。</p>
<p>諏訪書道研究会 7月30日(火) 諏訪教育会館 【参加者 12名】</p> 	<p>・3年生への指導方法 ・初心者から上級まで、段階に応じたの研修 ・楷書, 行書, 草書, かなの練習 ・子どもの作品研究・のし袋等への名前の書き方等</p>	<p>昨年度より参加者が増えた。通知を早めに出したことや自由な参加時間の設定がよかったかと思う。来年度も参加される方のニーズに合わせた講習会を考えて行きたい。 【参加者の声】集中できる環境で、一日書に向き合う時間がもてました。平林先生から細かく具体的なご指導をいただけて大変勉強になりました。</p>

<p>諏訪理科研究会 8月2日(金) 茅野市市民の森 吉田山 【参加者25名】</p> 	<p>NPO法人八ヶ岳森林文化の会井村悦子さん 諏訪市立城南小学校 白鳥保美 先生 第12回諏訪自然学と信濃教育会基礎講座 「理科観察実験講習会」を兼ねる。 豊かな森林を次世代に引き継いでいくために、森林を理解し守る取り組みを長年行っている八ヶ岳森林文化の会の皆さんを中心講師として、茅野市米沢の里山「吉田山」で初夏の植物を観察した。</p>	<p>【参加者の声】・森林文化の会の井村さんのお話を聞いて、同じ場所でも、年間通して様々な姿を見せてくれるということが分かった。また、秋にも訪れてみたいと思った。・植物の名前だけでなく特徴も丁寧に説明してくださり勉強になった。ミズメの木のにおいはとても印象に残った。・自分の住んでいる地域の自然にこれほど生き物がいることを知らなかった。今日の学びを子どもたちに伝えたい。</p>
<p>諏訪算数数学教育 研究会 8月1日(木) 2日(金) 横谷温泉旅館 【参加者42名】</p> 	<p>夏期研修会 ・模擬授業「クラウドを使って個別最適化と協働的な学びの一体化を目指した授業」 ・グラフ、図形の作成アプリ「Geo Gebra」の研修 ・関東甲信静数学教育研究大会(長野大会)のレポート審議 ・教育課程研究協議会の模擬授業 ・算数数学委員会実証授業の模擬授業 ・上越教育大学准教授、河野麻沙美先生による講演会 演題「算数・数学におけるICTの利活用の可能性」</p>	<p>関東甲信静大会レポート、教育課程研究協議会、算数数学委員会の模擬授業では、若い先生方を中心に熱のある発表が行われた。明日からの実践に生かせるヒントをいただくことができた。研究会前に研究内容や授業者の意図を知り、協議することで研究の深まりが期待される。 【参加者の声】・算数数学の専門でなく参加をした小学校教員ですが、みなさんがあたたかく教えてくれて、今まで考えたことがなかった考え方が分かり、とても有意義でした。2学期からの実践に向けて役に立ちました。</p>
<p>諏訪史談会 8月2日(金) 駿河の工房匠宿 丸子城址登城 諏訪原城址 高天神城 など 【参加者21名】</p>	<p>武田勝頼に対する一般的な見方は、「名門武田家を滅亡に導いた無能な二代目」のようなものが多いのですが、名門諏訪家の血筋を引く勝頼の戦術・生き様には敵将の信長も一目おいていたと言われます。勝頼が家康と死闘を繰り広げた静岡での史跡踏査を行いました。</p> 	<p>【参加者の感想・反省・要望】 ・山城は、規模が大きく壮大であった。昔の武士は、重い火縄銃を持ち、駆け上って戦うということを想像するとすごいことだと感じた。現地史跡ガイドの方の説明があり、史実についてより深く知るとともに、熱い思いに触れることができた。・藍染めは簡単でも風合いがとてもよかった。伝統的な品のよさを感じることができた。・現地で実際に学ぶことのよさ、本物に触れる(丁子屋の浮世絵)ことのよさを感じた。・今後も、教育会会員・一般会員の方とともに、より多くの方に参加できる日時・日程を検討していきたい。</p>
<p>諏訪国語教育学会 9月6日(金) 諏訪教育会館 【参加者10名】</p>	<p>信州大学教育学部准教授 八木雄一郎先生をお招きし、【「リフレーミング」を通して見つめ直す語彙と心の教育】と題したワークショップ及び講演会を行っていただいた。</p> 	<p>八木先生を諏訪にお招きするのは、10年ぶりぐらいとなる。当時、信州大学に来たばかりの新進気鋭の先生だったが、今回はこの間のご自身の研究や経験を踏まえながら、私たち現場にいる教員に、明日からの国語教育に活かせることをワークショップ形式で体験させていただいた。【参加者の声】語彙力とは、マイナスなものをプラスに変える力という言葉がとても印象に残りました。語彙力をなぜつけなければならないのか、またつけるとどんないい事があるのかということは今まであまり深く考えていなかったため、これを機にしっかりと向き合っていきたいと思いました。</p>

<p>諏訪哲学会 7月28日(日) 諏訪 法華寺 【参加者6名】</p>	<p>坐禅研修：住職から坐禅の心得を教えてもらった。 哲学書の読み合わせ：鈴木大拙著「日本的靈性」の読み合わせ部分のレポートの内容について話し合いをした。</p> 	<p>教職員ばかりではなく、一般会員の方や諏訪教育会以外の他支部からの参加が得られてよかった。夏休みに入り体調を崩された会員の方もおり、やむを得ず参加人数が少なかったため来年度はもう少し参加人数を増やしたい。 【参加者の声】・坐禅をすることで、心を落ち着かせて日頃の悩みを忘れて心を無にする時間を持つことができた。・坐禅の体験を生かして坐禅を続けていきたい</p>
<p>島木赤彦研究会 9月15日(日) 諏訪湖博物館・ 赤彦記念館 【参加者32名】</p> 	<p>講師 沢口英美先生(滄短歌会代表) <実施内容> ・島木赤彦研究会役員会 ・島木赤彦研究会総会 ・島木赤彦文学賞授賞式 ・講演会 演題「短歌という小定型詩の可能性」 概要 短歌は日本の景色や日本人の心理を細かく捉える詩型であるが、外国の広大な国土やその中で悠々と生きる民の底知れぬ生活力の深さをどれ程捉えることができるのか (岡野弘彦歌集『飛天』を中心にして) ・受賞者を囲む会</p>	<p>○島木赤彦文学賞の発表が6月11日となっているため、それから講演会の講師を東京本部で決めている。したがって、教育会の研修旬間の案内には講師や演題を紹介できない。先生方にこんな機会を詳しく紹介できないのが残念に思う。 【参加者の声】・実際に諏訪を訪れたことがあり、赤彦記念館や柿陰山房、墓などを訪ねたことがあり、その歌も歌集に載っている歌人のおはなしだったので、とても親しみやすく、お話をお聞きすることができた。・実際に短歌を創作されている方から他の歌人の 歌の解釈やコメントを直接お聞きすることができ、とても興味深いお話だった。</p>
<p>諏訪寒水会 (伊藤長七会) 8月6日(火) 教育会館 大会議室 【参加者140名】</p> 	<p>諏訪寒水会5周年記念、 第3回伊藤長七フォーラムin諏訪 第1部 ・講談 田辺鶴遊講談師 「伊藤長七物語」 ・詩吟 諏訪岳風会「ああ伊藤長七先生」 第2部 ・現代教育観について 諏訪寒水会副会長 河西敏夫 ・伊藤ひろ子さんのお話と朗読 ・記念講演会 栗原卯田子先生 元小石川中等教育学校長 演題「子どもたちの未来と学びの創造 ～伊藤長七の思想と学校づくり～」</p> 	<p>・大変充実したフォーラムができた。テーマである「伊藤長七を知ろう」が一般に広く伝わった。・地道に研究していきながら、伊藤長七のフォーラムや生誕100年など東京寒水会と連携しながら諏訪地方に伊藤長七を広めていきたい。寒水会により多くの先生方にも参加していただき伊藤の教育観を現在の教育に生かしていきたい。会員を少しずつ増やしたい。このフォーラムが少しずつ別の形で発展していく(高校世界史授業、諏訪岳風会東京との関係)のが幸いである。 【参加者の声】盛りだくさんで長い時間でしたが、飽きることなくわくわくした時間でした。内容の濃い良い集まりでした。栗原先生の講演は諏訪の一貫校についての学ぶべき点が多くありました。・プロの講談を初めて聞きました。迫力ユーモア、取材のすごさ。感動でした。諏訪岳風会の情緒あり魂のこもった詩吟すごいです。</p>